

グリーンカルチャー

令和3年度

夏号

No.319

こゝろ

発行 | 甲賀農業農村振興事務所
農産普及課

住所 | 〒528-8511

甲賀市水口町水口6200

電話 | 0748-63-6126

発行責任者 | 市井 広樹

山間部での摘採（朝宮）



甲賀の茶の生産振興を目指して

甲賀地域は、滋賀県内の荒茶生産量の9割以上を占める県内一の茶産地です。平坦な地形を活かし、機械化が進んだ比較的大規模な経営の多い土山地域と急傾斜地において高級茶を主体に生産している朝宮地域の2つの特徴的な茶産地があります。

今回は、朝宮地域における有機栽培茶の生産拡大に向けた取組をご紹介します。

摘採最盛期（土山）

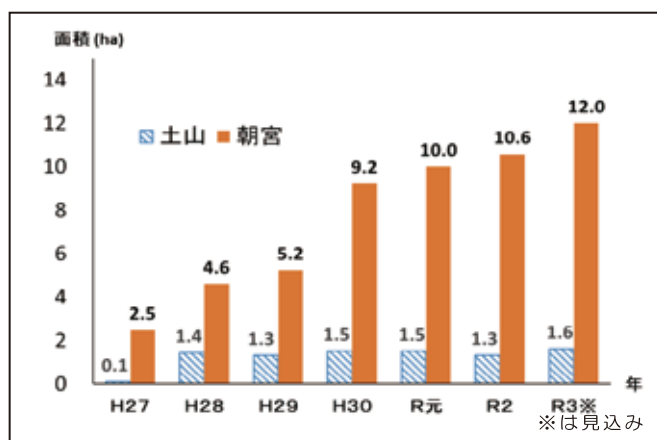


「朝宮茶有機栽培研究会」活動開始！

■朝宮地域における有機栽培茶の生産動向及び課題について

近年、朝宮地域では、海外輸出を含めた有機栽培茶の需要の拡大を受けて有機栽培茶生産を志向する農家が増加傾向にあります（令和2年実績12戸10.6ha）。しかし、販売先が異なるうえ、栽培技術もそれぞれ独自に取り組んでおり、朝宮地域全体で有機農業に関する情報が十分共有できていないことが課題となっていました。

そこで、当課の働きかけのもと有機栽培を志向する茶農家12戸と信楽町茶業協会が、有機栽培技術や有機JAS認証に関する情報を交換し、今後の有機茶づくりのあり方について検討を深めるとともに面積拡大を図っていくことをねらいとして、「朝宮茶有機栽培研究会」（以下「研究会」）を設立されました。



甲賀地域における有機栽培茶園面積の推移

■「朝宮茶有機栽培研究会」の活動について

研究会は令和2年9月に設立され、令和2年度は以下の活動を支援しました。

①基調講演会

11月26日に、過去多くの有機JAS認証をサポートしてきた6次産業化プランナーの福井佑実子さんから、「コロナ禍での有機農業の情勢について」と題して講演をいただきました。

②産地検討会の開催

有機JAS認証取得を目指す4人の農家において、取得に向けての取組や相互の協力体制等の検討を行いました（写真）。



産地検討会の様子(12/14)

③有機JASの取得に向けた相談活動

認証取得に向けた有機JAS規格への対応等の具体的な取組に関する相談会を開催し、令和3年4月には2名の農家が有機JAS認証を取得できました。

こうした活動を通じて、研究会の会員からは、「栽培技術の向上や販路開拓等を図り、朝宮の産地としての有機栽培茶を今後どのようにしていくのかを今すぐみんなで考える必要がある」と問題意識をもたれ、そこから、病害防除技術の現地実証や、12戸の有機茶を使ったPR用の新商品が作れないか等の朝宮地域の有機茶づくりについて議論を深めることができました。

当課では、引き続き研究会の活動を支援し、今後も有機茶の生産および販売に対する機運を盛り上げていきたいと考えています。

ユーカリ栽培にチャレンジしませんか

ユーカリは、銀灰色の葉が特徴的な、主に葉を楽しむ「枝物」と呼ばれる花きの中の1品目です。アレンジメントに、お稽古花材に、花束のグリーンや添え花に、様々な用途で利用される人気の花材です。

急増している需要に対して供給が不足していることから、花き卸売市場や大手フローリスト（実需者）から生産の提案を受けるとともに、強い期待もあったことから、令和元年度から甲賀市内で試験栽培を開始し、令和2年度から本格的に栽培を推進しています。



■令和2年度の栽培事例から

令和2年度は、8戸の生産者により合計約1.3haで6品種のユーカリが栽培されました。

5月末～6月上旬に定植され、その後の主な作業は、草刈、摘心、倒伏防止のための支柱立てを行いました。生育は概ね順調に進み、年末～年明け後の寒波のため、凍害が発生した品種がありましたが、株そのものが枯死することはなく全ての品種で冬を越すことができました。

生育の早かった生産者は1年目から出荷することができ、1月～3月にかけて切り枝長30～80cmのものを出荷しました。10aあたりの市場出荷本数は約1,200本で、売上額は約48,000円（1本当たり単価10～150円）でした。また、10aあたり年間作業時間は約150時間（8月盆前出荷露地小ギク（約300時間）の半分）でした。市場関係者からは、「他県の先進産地と比べてもそんな色ない品質」と評価は良好でした。また、生産者からは、「冬場の農作業が落ち着いている期間に収穫ができる。本格的な収穫と出荷が始まる来年に期待している。」との感想をいただきました。

令和3年度からの本格出荷に向けて、花市場との情報交換を行っているところです。



定植直後の苗



収穫作業の様子



出荷したユーカリ

■ユーカリ栽培のポイント

- ①日当たりと風通しがよく、排水性の良い土壌での栽培が適していますが、水利条件の悪い（水が入らない）ほ場や不整形で作業性が低い等、作付け条件の不利な農地での栽培が可能です。
- ②木本植物であるため、1度植え付けると数年間にわたり収穫できる省力的な品目です。
- ③収穫できる期間が長く、作業の都合をつけやすいです。
- ④シカやイノシシなどの野生獣による芽や葉の食害が比較的少ない品目です。
- ⑤定植後しばらくの間は雑草にのまれやすいので、雑草対策は必要です。

様々な用途があり、根強い需要があるユーカリ栽培をぜひご検討ください。
詳しくは、当課までお気軽にお問い合わせください。

滋賀県農業大学校のご案内

滋賀県立農業大学校（専修学校）では、近代的な農業を行うために必要となる高度な専門知識と技術を学ぶことができます。また、在学中に就農や就職に必要な各種資格の取得も可能です。

本県農業を担う優れた青年農業者を養成する「養成科」（修業2年）と、就農に必要な技術と知識を修得するための「就農科」（修業1年）があります。

※詳しくは、農業大学校(0748-46-2551)、または当課までお問い合わせ下さい。

農大卒業生インタビュー



イチゴの苗の管理をする増田さん

「野菜の栽培や自分のやりたいことができている楽しい！」

そう語るのは、滋賀県立農業大学校から甲賀市内で米や野菜を生産する有限会社シオールファームへ「就職就農」された増田さん。野菜栽培を学ぶため2か月間の研修に来たことが、シオールファームへの就職につながりました。

増田さんは「入学した当初は、農業の経験がないことから栽培技術の習得ができるか不安でした。しかし、農業大学校では座学や実習で農業を基礎から学ぶことができ、安心して就農することができました。加えて、同年代の農業を志す仲間とのつながりができたことが何よりも大きな収穫です。新型コロナウイルス感染症の影響で、同期生と以前のようにスノーボードやBBQに行けないのが残念ですが、今でも連絡を取り合っています。」と話されます。

今では、イチゴをはじめとした多くの野菜の責任者を務めるほか、シオールファームの6人の若手社員が湖南省で設立した高糖度トマトを生産する株式会社ROPPO（ロップポ）においても主力メンバーとして活躍されています。

今後も、大好きな野菜栽培を続けていくのが目標だそうです。これからのますますのご活躍が楽しみです。

“しがCO₂ネットゼロ”への取組について



地球温暖化の進行に伴い、猛暑や豪雨のリスクが高まることが予測されています。

滋賀県では、2050年までに二酸化炭素の排出量を実質ゼロ（＝ネットゼロ）にすることを目指し、2020年1月に、県民、事業者等多様な主体と連携して取り組む「“しがCO₂ネットゼロ”ムーブメント」キックオフ宣言をしました。農業分野では、下欄の取組等を行うことで地球温暖化防止効果が期待されています。

【排出量削減対策】	水稲の長期中干し（14日以上）による温室効果ガス発生量削減
【吸収源の確保】	①家畜ふんたい肥の施用、②カバークロープによる土づくり、③有機農業の実施による農地土壌の炭素貯留量の増加

令和2年度、甲賀地域では環境こだわり水稲の生産において、2週間以上の長期中干しに約1,940haで取り組んでいただきました。これにより、通常の中干しでの栽培に比べ約4,000tの温室効果ガスの排出削減につながったと試算されています。引き続き、これらの取組拡大にご協力をお願いします。